

AIWEST-DR 2021 会議報告書 (2021/10/26-27)

テーマ：2004 年インド洋大津波、2011 年東日本大震災、防災全般、COVID-19 パンデミック
会場：シアクアラ大学津波・災害軽減研究センター (TDMRC) (バンダ・アチェ)、オンライン

災害科学国際研究所と TDMRC は、2021 年 10 月 26 日から 27 日にかけて、第 13 回アチェ国際ワークショップと持続可能な津波災害復興に関する博覧会 (AIWEST-DR 2021) を開催しました。

AIWEST-DR は、2004 年のインド洋津波に続く歴史的な人的被害、インフラ開発の損傷と再建からの教訓を共有することを目的として、バンダ・アチェのシアクアラ大学津波災害軽減研究センター (TDMRC) によって創設されました。第 13 回 AIWEST-DR はバンダ・アチェで開催され、東北大学や他の国際的なパートナーとシアクアラ大学のコラボレーションを特に記念し、オンラインプラットフォームの使用を通じた世界的な参加が見られました。

会議には 250 名以上の参加者が集まり、その多くがインドネシアからの参加者でした。初日には、今村文彦教授 (当研究所所長)、Rajib Shaw 教授 (慶応義塾大学)、Safrizal Rahman 氏 (シアクアラ大学)、Helene Joffe 教授 (University College London) の 4 名による COVID-19 パンデミックに関連した津波災害、災害ガバナンス、災害教育、災害心理学などの幅広いテーマの基調講演が行われました。また、メガ災害における大学コンソーシアムの役割についてのパネルセッションや、災害に関連する幅広いテーマによる 6 つの特別セッションも行われました。

2 日目は、5 つのテーマに沿ったパラレルセッションで、100 以上の学術論文が口頭発表されました。当研究所教員による発表は 14 件あり、共著者として参加した発表も 5 件ありました。エリック・マス准教授 (国際研究推進オフィス) は、インドネシアからの他の 2 名の発表者とともに、ベストプレゼンターの 1 人として表彰されました。また、江川新一教授 (災害医療国際協力学分野) は、将来のレジリエンスのための災害科学の博士課程に関するフォーカスグループディスカッションに参加しました。

AIWEST-DR 2021 は、災害、復興、パンデミックに関する様々なテーマの研究の最新成果を、各国の専門家と共有する機会となりました。この会議では、インドネシア、日本、イギリスの大学間で行われている様々で活発な国際協力にも注目が集まりました。閉会の挨拶は、当研究所所長に代わり 2030 国際防災アジェンダ推進オフィスの小野裕一教授が行いました。

次回の AIWEST-DR は、2022 年にシドニー大学で開催される予定です。

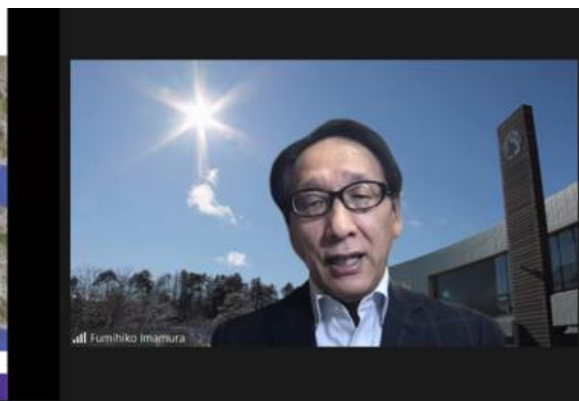
AIWEST-DR 2021 のホームページ (プログラムや詳細について) :

<http://aiwest-dr.unsyiah.ac.id/2021/>

文責：マリ・エリザベス、サッパシー・アナワット、ボレー・ペンメレン・セバスチャン、
マス・エリック (国際研究推進オフィス)
(次頁へつづく)



Samsul Rizal 教授による開会の挨拶（工学博士 シアクアラ大学学長（左）と新 TDMRC 所長の Syamsidik 氏（右）



今村文彦所長による基調講演



小野裕一教授による閉会の挨拶